

第6学年 国語科学習指導案

日 時 令和8年5月11日(月)
第5校時 13:30~14:15
対 象 第6学年1組 32名
会 場 6年1組教室
授業者 福本 修也

<研究主題>

生き生きと他者と関わり合い、自分の考えを深める児童の育成
～話し合いを通じた主体的・対話的で深い学びの実現を目指して～

- 1 単元名 視点の違いと対比を手がかりに物語を読み深め、印象に残ったことを伝え合おう。
教材名 帰り道(光村図書 6年)

2 単元の目標

- 登場人物の言動や心情、心情の変化を読み取るとともに、同じ事象が二人の登場人物それぞれの視点から語られる構成の特徴や、対比によって物語が構成されていることを理解することができる。
- 登場人物の言動や心情を対比させながら物語の構成を捉え、重要な対比を根拠にして主題について考えるとともに、自分の意見と友達の意見を比較し、考えを深めることができる。
- 学習課題についてすすんで自分の考えをもち、他者の考えを受け止めたり自分の考えを伝えたりすることができる。

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①登場人物の言動や心情、心情の変化を読み取ることができる。 ②同じ事象が二人の登場人物それぞれの視点から語られる構成の特徴を理解している。 ③対比によって物語が構成されていることを理解している。	①登場人物の言動や心情を対比させながら物語の構成を捉え、自分の意見と友達の意見を比較し、考えを深めている。 ②主題につながる対比について考え、自分の意見と友達の意見を比較し、考えを深めている。	①学習課題についてすすんで自分の考えをもち、他者の考えを受け止めたり自分の考えを伝えたりしている。

4 指導観

(1) 単元観

本単元では、「帰り道」を中心教材として扱い、物語の読みを深める力の育成を目指す。本教材は、同じ事象に対して、二人の登場人物それぞれの視点から語られる構成となっており、視点の違いによって出来事の捉え方がどのように変化するかを理解させることができる。また、登場人物の言動や心情を対比させたり、物語の冒頭と結末の様子を対比させたりすることで、物語の大まかな構成を捉える力を養うことができる。さらに、これらの読みをもとに、物語の主題について考えを深めていくことにつなげていく。このような学習を通して、複数の視点から物語を読み取り、対比を手がかりに構成や主題を捉える力を身に付けさせたい。

(2) 児童観

5年生のはじめの段階では、どの学級においても発言する児童が限定されている様子が見られた。そこで、どの児童も安心して自分の考えを表現できるよう、互いの良さを認め合える学級づくりを進めるとともに、発言の練習の場をこまめに設けるなどの工夫を重ねてきた。その結果、1学期末から2学期後半にかけて、全ての学級において全員発言を達成することができた。3学期末に実施したアンケートでは、「話合いが好きか。」「反応したり質問したりしながら聴くことができるか。」「理由や根拠を入れた自分の思いや考えを相手に伝えることができるか。」といった8種類の質問全てにおいて、90%以上の児童が肯定的に回答した。今年度6年生に進級してからも、すでにどの学級においても全員発言が達成されている。

一方で、現在の課題として、児童が主体的に、うなずきやリアクションなどを通して話合いの雰囲気を作りやすくしていくこと、また、全員が発言しただけで終わるのではなく、そこから比較・検討や質疑応答を行い、議論を深めていくことが挙げられる。これらの力については、今後更に高めていく必要がある。

(3) 教材観

本教材は、登場人物の心情やその変化が比較的分かりやすく描かれており、児童が人物の内面に着目して読む学習に適している。物語の内容が児童にとって身近に感じられるものであるため、登場人物に自分の経験や思いを重ね合わせやすく、より主体的に心情を捉えることができる点にも特徴がある。また、登場人物同士の言動や心情の対比についても多様な意見を引き出すことができ、話合いを通して読みを深めやすい教材である。特に、数ある対比の中から主題につながるものを絞る話合いを行うことで、物語をより深く読み取ることができると思う。

本教材は多様な見方や考え方を生み出しやすく、児童同士が意見を比較・検討したり、理由を問うたりしながら議論を深めていくことができる。そのため、(2)児童観で述べたような、話合いにおける主体性を高めたり、発言をもとに議論を発展させたりすることを課題としている児童にとって、極めて適した教材であるといえる。

一方で、本教材は、二人の登場人物がそれぞれの視点から同じ出来事を語るという構成になっており、このような形式に初めて触れる児童も少なくない。そのため、物語を十分に味わうためには、まずこの構成自体を理解させる必要がある。そこで、本教材に入る前に、同様の構造で書かれた別の物語を用いた学習を行い、児童がこの形式に慣れる機会を設ける。これにより、物語の構成に戸惑うことなく、内容の読み取りに円滑に入ることができるようにする。

5 年間指導計画における位置付け

月	単元名・教材名	学習活動	指導事項
4月	はじめと終わりで変わったところを見付け、感想を伝え合おう。 「世界でいちばんやかましい音」	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめと終わりで変わったところを見付ける。 ・対比について知り、文章の中から見付ける。 ・学習を通して感じたことを伝え合う。 	はじめと終わりで変わったところを見付ける。 対比について知り、話し合う。
5月 本単元	視点の違いと対比を手がかりに物語を読み深め、印象に残ったことを伝え合おう。 「帰り道」	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ事象に対して、二人の登場人物それぞれの視点から語られる物語について知る。 ・登場人物の人物像や心情変化について話し合う。 ・対比を見付け、主題につながる対比はどれかを話し合う。 ・作品の中で印象に残ったことを伝え合う。 	同じ事象に対して、二人の登場人物それぞれの視点から語られる物語について知り、話し合う。
9月	作品の世界を想像して比べながら読み、考えたことを伝え合おう。 「やまなし」	<ul style="list-style-type: none"> ・資料「イーハトーヴの夢」を読み、作者の生き方や考え方を知る。 ・二つの場面を対比しながら、作品の世界を想像して読む。 ・題名の理由について話し合う。 ・学習を通して考えたことを伝え合う。 	作者の生き方や考え方を知り、話し合う。
12月	物語に描かれていることを自分自身と結び付けながら読み、考えたことを伝え合おう。 「ぼくのブック・ウーマン」	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の人物像や心情変化について話し合う。 ・物語を読んで考えたことを伝え合う。 	物語を読んで考えたことを伝え合う。
3月	登場人物の生き方について、考えたことを話し合おう。 「海の命」	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の考え方や生き方に影響を与えた人物について話し合う。 ・題名の理由について話し合う。 ・登場人物の生き方とそれに対する自分の考えをまとめる。 	登場人物の生き方とそれに対する自分の考えをまとめる。

6 単元の指導計画と評価計画（全9時間）

時	目標	学習活動 ◆主発問 ◇揺さぶり発問	評価規準（評価方法）
1	登場人物ごとの視点で語られる文章の構成に気付き、その特徴を理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・『『ミステリーの館』へ、ようこそ』（一部）（はやみねかおる）の範読を聞く。 ・同じ出来事が異なる人物の視点で語られていることに気付く。 ◆「亜衣とレーチの考えていることは、どこが同じでどこが違うのか。」について話し合う。 ・学びの成長タイム 	アー② （発言・観察）
2	気付いたこと、疑問に思ったこと、みんなで考えたいことを中心に、初発の感想を書くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「帰り道」の全文の範読を聞く。 ・気付いたこと、疑問に思ったこと、みんな考えたいことを中心に、初発の感想を書く。 ・初発の感想を共有し、友達の感想を読んで感じたことを伝え合う。 ・学びの成長タイム 	アー② （発言・ノート・観察） ウー① （発言・ノート・観察）
3	初発の感想を基に、単元全体のめあてを作り、学習計画を立てることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に共有した初発の感想を想起し、本作品では同じ事象が二人の登場人物それぞれの視点から語られており、対比によって物語が構成されていることに気付く。 ・単元全体のめあてを作る。 	アー② （発言・観察） アー③ （発言・観察）
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 単元のめあて 視点の違いと対比を手がかりに物語を読み深め、印象に残ったことを伝え合おう。 </div>			
		<ul style="list-style-type: none"> ・初発の感想と単元全体のめあてを基に、学習計画を立てる。 ・学びの成長タイム 	
4	律の人物像や心情の変化を捉え、叙述を基に説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童から出た「問い」を話題にして、登場人物の人物像や心情変化を読む。 ◆「律はどのような人か。」について話し合う。 ◆「律の心情が大きく変わったのはどこか。」について話し合う。 ◇「53行目『ぼくと周也は』と71行目『ぼくたちは』で、表現を変えているのはなぜか。」について話し合う。 ・学びの成長タイム 	アー① （発言・ノート・観察） ウー① （発言・ノート・観察）

5 ・ 6	周也の人物像や心情の変化を捉え、叙述を基に説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童から出た「問い」を話題にして、登場人物の人物像や心情変化を読む。 ◆「周也はどのような人か。」について話し合う。 ◆「周也の心情が大きく変わったのはどこか。」について話し合う。 ◇「『行こっか。』と『うん。』は、それぞれどちらが言った言葉か。」について話し合う。 ・学びの成長タイム 	アー① (発言・ノート・観察) ウー① (発言・ノート・観察)
7	登場人物の言動や心情の対比に気付き、叙述を基に説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童から出た「問い」を話題にして、物語に出てくる対比を読む。 ◆「この物語には、どのような対比があるか。」について話し合う。 ・学びの成長タイム 	アー③ (発言・ノート・観察) イー① (発言・ノート・観察)
8 本 時	複数ある対比の中から主題につながるものを選び、その理由を叙述を基に説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童から出た「問い」を話題にして、物語に出てくる対比を読む。 ◆「作者が一番大事にした対比はどれか。」について話し合う。 ◇「作者はなぜ、この物語を『晴れ→雨→晴れ』という構成にしたのか。」について話し合う。 ・学びの成長タイム 	イー② (発言・ノート・観察) ウー① (発言・ノート・観察)
9	本単元でこれまでに学習してきたことを想起し、構成と内容の両面から、特に印象に残ったことについてまとめ、伝え合うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・構成と内容の両面から、特に印象に残ったことについて、自分の考えをもつ。 ・特に印象に残ったことについて、自分の考えを伝え合う。 ・学びの成長タイム 	ウー① (発言・ノート・観察)

7 研究主題に迫るための手だて

「生き生きと他者と関わり合い、自分の考えを深める児童の育成」を目指すために以下の工夫を行う。

【話し合う力】

○ 主発問

児童一人一人が他者と関わり合いながら学び、自分の考えを深めていくためには、全ての児童が自分の考えを表現する機会をもつことが不可欠である。そのため、本単元では全員発言を重視し、授業の前半において全員が発言できる場を設定する。

全員発言を達成するための手だてとして、学習の中心となる主発問を、児童が自分なりの考えをもちやすいものとして位置付ける。具体的には、一つの正答に収束するのではなく、複数の捉え方や立場が生まれる問いを設定することで、どの児童も自分の考えをもって発言できるようにする。

これにより、全員が話し合いに参加する土台をつくり、その後の比較・検討や議論の深まりへとつなげていく。

○ 個の実態に応じた段階的な発言指導

児童が互いに関わり合いながら話し合いを進められるよう、聴き方や発言の仕方を具体的かつ段階的に指導する。

聴く際の留意点として、話し手の発言に対して、うなずきや相づち、短い返事などのリアクションを積極的に行うことを大切にする。また、話の内容に応じて「分かります」「同じです」「少し違います」など、自分の立場を簡潔に示す反応を返すことで、話し手とのやり取りを生み出すことを意識させる。さらに、必要に応じて質問や問い返しを行うことで、話し合いを広げたり深めたりする役割を担うことも促す。

発言する際の留意点として、以下の三つの指導を行う。

第一に、一文を短く区切って話すことで、聴き手が合間にうなずきやリアクションを入れられるようにする。第二に、根拠を示す際には「〇〇行目を見てください。」と呼びかけたり、「ここまでよいですか。」と確認したりするなど、全員が理解しながら話し合いに参加できるような言葉を用いるようにする。第三に、「〇〇さんはどう思いますか。」「〇〇という考えの人は、今の私の考えについてどう思いますか。」など、他者に問いかける形で発言することを促す。

聴き方や発言の仕方を身に付けさせることで、児童同士の双方向的な関わりを活性化し、互いの考えを受け止めながら比較・検討し、議論を深めていくことができるようにする。なお、これらの指導は全員に一律に求めるのではなく、児童一人一人の実態に応じて段階的に行うこととし、それぞれの発達や習熟の状況に応じて無理のない形で力を伸ばしていく。

○ 揺さぶり発問

児童主体の話し合いを基本としながらも、議論が停滞した場合に備え、教師はあらかじめ思考を揺さぶる発問を準備しておく。多様な視点を提示したり、既存の考えを問い直したりする発問を適切に位置付けることで、児童の考えを広げたり深めたりする契機をつくる。これにより、話し合いを再び活性化させ、より質の高い議論へと導く。

8 本時（全9時間中の第8時）

(1) 本時の目標

複数ある対比の中から主題につながるものを選び、その理由を叙述を基に説明することができる。

(2) 本時の展開

	学習内容・学習活動	・指導上の留意点 ★手だて ◎評価規準(評価方法)
導入 5分	<p>1 前時で見付けた対比を振り返る。</p> <p>2 本時の問いを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>作者が一番大事にした対比はどれか。</p> </div>	<p>・前時で出た対比を一覧にして、配布する。</p> <p>・主題につながる対比を考えさせるために、児童が取り組みやすい言葉で問う。</p>
展開 35分	<p>3 本時の課題について、本文の叙述を根拠にして自分の考えをもつ。</p> <p>4 主題につながる対比について、考えたことを話し合う。</p> <p>C 1 : 18「ついていけない」と 86「ちんもくにたえられない」は大事だと思う。二人がすれちがっている原因になっている。</p> <p>C 2 : 38「思っていることが言えない」と 104「何も言えない」は、二人とも言えないところが同じで大事だと思う。</p> <p>C 3 : 67「分かってもらえた気がした」と 142「受け止められた」は、最後に分かり合えたところだから、作者が伝えたいことに近いと思う。</p> <p>C 4 : 46「シャワー」と 120「ピンポン玉」は、同じ雨なのに見え方が違って、作者が“同じものでも感じ方が違う”ことを大事にしていることが表れていると思う。</p> <p>C 5 : 91「さえない足音（はじめ）」と 71「軽快な足音（おわり）」は、二人に共通する心情につながるから、作者は大事だと考えていると思う。</p> <p>C 6 : 「晴れ」と「雨」は、はじめの状況、きっかけ、結末、と物語の流れに沿っているので、作者は大事にしていると思う。</p> <p>C 7 : C 1は最初の問題であって、作者が一番言いたいことではないと思う。</p> <p>C 8 : C 2はまだ途中の状態、ここからどう変わるかが大事だと思う。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>★相互指名 主体的に話し合いに取り組みさせる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>★ネームプレート 誰の意見かを明確にし、質問や付けたしをする際に活用する。 話し合いに関して当事者意識をもたせる。</p> </div> <p>・根拠となる叙述を示しながら発表させる。</p> <p>◎【態度】ウー① 学習課題についてすすんで自分の考えをもち、他者の考えを受け止めたり自分の考えを伝えたりしている。 (発言・ノート・観察)</p> <p>◎【思・判・表】イー② 主題につながる対比について考え、自分の意見と友達の見解を比較し、考えを深めている。 (発言・ノート・観察)</p>

	<p>◇揺さぶり発問</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>作者はなぜ、この物語を 「晴れ→雨→晴れ」という構成にしたのか。</p> </div> <p>C 9 : もし最初がくもりだったら、最初からうまくいっていないことが分かってしまう。最初を晴れにすることで、気まずさを分かりにくくしていると思う。</p> <p>C 10 : 同じ晴れでも意味が変わっているのだから、作者は変わったことを分かりやすくするために、晴れ→雨→晴れにしたと思う。</p> <p>C 11 : 最後も晴れになっているけど、最初と同じ晴れではないと思う。最初は気まずい晴れで、最後は分かり合った後の晴れだと思う。</p> <p>C 12 : 最初は『どっちが好き』と一つに決める感じだけど、最後は『両方好き』になっているのだから、その変化を表すために、晴れと雨の両方を出したと思う。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★揺さぶり発問</p> <p>より細かい叙述にまで着目させる。 議論を活性化させる。</p> </div> <p>・揺さぶり発問は、話合いの状況によって変わる可能性がある。 話合いについていけない様子の児童が多い場合には、「最初の場面は、くもりでもよいか。」「最初の晴れと最後の晴れは同じなのか。」など、より限定した発問に変える。</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>5 学びの成長タイム</p> <p>C 13 : 話合いを通して、友達の考えに納得した。</p> <p>C 14 : 自分の考えを、根拠をもって、分かりやすく伝えることができた。</p> <p>C 15 : 話合いが停滞しそうなときに、自分から全体に声を掛けることができた。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★学びの成長タイム</p> <p>自分の学習を振り返り、自分の成長を確かめさせる。</p> </div>

(3) 板書計画

<ul style="list-style-type: none"> ・くもりだと、心情が分かりやすすぎる。 ・最初と最後の晴れは違うと気付かせる。 ・くもりを入れて三種類が多い。 ・二種類出し、「両方好き」につなげる。 	<p>作者はなぜ、この物語を 「晴れ↓雨↓晴れ」という構成にしたのか。</p>	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>雨 晴れ</p> <p>気持ちは変化と関係している</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>71 91 120 46 86 18</p> <p>軽快な足音 二人に共通する 心情変化</p> <p>さえない足音</p> <p>周ピンポン玉 考え方が違う</p> <p>律シヤワー 同じものでも</p> <p>周たえられない すれちがう原因</p> </td> </tr> </table>	<p>雨 晴れ</p> <p>気持ちは変化と関係している</p>	<p>71 91 120 46 86 18</p> <p>軽快な足音 二人に共通する 心情変化</p> <p>さえない足音</p> <p>周ピンポン玉 考え方が違う</p> <p>律シヤワー 同じものでも</p> <p>周たえられない すれちがう原因</p>	<p>作者が一番大事にした対比はどれか。</p>	<p>帰り道</p>
<p>雨 晴れ</p> <p>気持ちは変化と関係している</p>	<p>71 91 120 46 86 18</p> <p>軽快な足音 二人に共通する 心情変化</p> <p>さえない足音</p> <p>周ピンポン玉 考え方が違う</p> <p>律シヤワー 同じものでも</p> <p>周たえられない すれちがう原因</p>					

(4) 授業観察の視点

- | | |
|---------------------------|--------------|
| ① 話合いにおける教師の働き掛け、言葉掛け、対応等 | ② ①に対する子供の変容 |
| ③ 発問に対する子供の思考の深まり | ④ その他 |